

〔6番 上ヶ吹豊孝 登壇〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

議長のお許しを得ましたので一般質問をいたします。今回は2つの質問をいたします。

1つ目は、イノシシによるインフラ被害について。近年イノシシの生息が急速に拡大し、それに伴い飛騨市でも農作物などの被害も多くあったが、猟友会とも連携し個体数を減らす努力や市の補助金等で農家ではワイヤーメッシュ柵や電気柵等を設置し、農作物の被害は以前と比べると減少しているように思います。しかし、4～5年前から農作物の被害より、国道、県道、市道、農道、農業用水路がイノシシによる掘り起こしがあり、相当の被害が出て、今対策を講じなければ年々被害件数が増すばかりです。

そこで添付資料をご覧ください。これは令和元年から今年の5月までのイノシシ被害による地区要望で、基盤整備部が担当された案件です。これを見ますと一番上のQ1で、なぜかは知りませんが毎年神岡町だけ被害が多いです。令和6年4月、5月ですが、既に5件の被害が発生をしております。Q2では金額ですが、これも当然、神岡町の被害金額が多くて、令和6年のふた月で既に144万円というふうに数字が出ております。一番下の県及び国への要望件数では、古川町が毎年1～2件のイノシシによる被害要望が出ています。これは地区要望で出されたイノシシによる被害で、本庁、各振興事務所の担当部署が対応した案件です。なぜ神岡町だけ多いのが気になりますが、令和2年度より件数も被害額も増えています。今年度は5月末で既に神岡町では5件、金額も150万円弱と多く被害が出ています。県や国への要望では、古川町では毎年要望が出ていることから県道や国道にも被害が出ているのではないかと思います。この資料は担当部署が基盤整備部なので、農林部も合わせれば相当な件数になり被害額も多いのではないのでしょうか。掘り起こされたのり面は降雨によるのり崩れが起き、道路や耕作地への土砂崩れ災害が心配されます。5月末の豪雨で神岡地区の集落では、田んぼののり面がイノシシで掘り起こされたところに雨水がたまり崩壊しました。今回のこの案件は農林部と思われますが、基盤整備部としてイノシシによる掘り起こし被害対策がどのように行われているのか。また、現状把握はどこまでされているのかも含めお尋ねします。

1つ目、道路のり面の被害調査について。市道や農道で毎年のり面の除草や草刈りをしていないところは葛が生い茂り、葛の大きくなった根っこを食べるため道路のり面を掘り起こし、道路への落石を起こして交通災害を発生させたり、豪雨時の斜面崩壊の原因となることが懸念されます。イノシシは鼻先だけでも約70キログラム程度の重量を持ち上げることができ、万が一、国道、県道、市道、農道に大きな石が落ちた場合は大きな交通災害につながる恐れがあります。去年は市道ののり面がイノシシにより掘り起こされ、大きな石が道にまで落ちて振興事務所で対応していただきましたが、住民の重要なアクセス道路であり、そうした事案が今後増えるのではないかと非常に心配をしています。市としては広範囲になるので非常に難しいとは思いますが、日頃どのような点検や対策を講じているのか。また、検討されていることがあれば伺います。

2つ目、イノシシ被害の拡大について。令和6年度飛騨市一般会計補正予算（専決第1号）では、5月28日の豪雨により飛騨市内でも数多くの被害が発生しました。林道1件、公共土木施設8件、市単対応では農地5件、土木15件で、市単の工事分だけで2,000万円にも上ります。確かに

28日の雨は通行規制連続雨量に達したことで国道41号や国道360号が通行止めになりましたが、過去にも雨量規制で通行止めはありましたが1日の雨でこれだけの被害があった原因はほかにあるのではないかと推測します。今年は暖冬で積雪も少なく2月下旬には雪も解け、地肌が出ていました。そのためイノシシが葛の根を探し、農地ののり面や市道、農道の路肩を重機で掘り起こしたと思われるような深い穴ができています。そこで、今回の被害は掘り起こした穴に雨水がたまり、崩壊した直接の原因はイノシシによる掘り起こしではないかと思いますが、いかがでしょうか。

3つ目、イノシシ被害対策の連携は。イノシシ被害は農作物で多くありましたが、各農家では市の補助金を利用し電柵や防護柵の設置をして農作物を守っています。それが、近年は防護対策をしてないところ、つまり何年も除草や草刈り作業等をしていない場所にイノシシの被害が発生しています。今まで農林部で行った対策のノウハウを生かしてイノシシによる被害対策を講じなければ、今後、掘り起こしが原因となるインフラ施設、農地ののり面、河川の堤防、道路などに甚大な被害が発生するのではないかと心配しています。農林部や飛騨市猟友会、その他の関係各所との連携はされているのか。また、基盤整備部としてイノシシによるインフラ被害対策をどのように検討されているのか伺います。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔基盤整備部長 森英樹 登壇〕

□基盤整備部長（森英樹）

1点目の道路のり面の被害調査等についてお答えします。イノシシによるインフラ被害は、掘り起こしによる道路のり面からの落石や、水路へ土砂が入り水路閉塞による越水などが主な被害となっております。基盤整備部としては月2回の道路パトロールによる点検を行っておりますが、市道に加え農業用施設や林道など広範囲にわたることから道路パトロールだけでは十分把握しきれないのが実情であり、地区の要望や市民からの通報により現地確認を行い、それぞれの状況に応じ職員または業者委託により落石除去やのり面被害の部分補修などの対応を行っております。イノシシ等による道路のり面被害を未然に防止することは極めて難しく、現時点では抜本的な対策はないのが実情です。今後も地元区や近隣住民からの情報を収集し、事後保全を継続しつつ、被害頻度の高い箇所や危険度の高い箇所についてのり面防護シート等の対策工法を検討してまいります。

2点目の被害の拡大についてお答えします。先般5月28日から29日にかけて発生した豪雨は、24時間で最大雨量160ミリメートルを観測し、河川護岸の決壊、急傾斜地の崩壊、林道路側の決壊などが発生し、被害総額は約2億6,000万円となりました。今回の災害原因を推測しますと、国補助を受ける災害採択要件である24時間最大雨量80ミリメートルの約2倍の降雨があったことから、河川においては流域からの流入量増加に伴う被災であり、市道や林道においては、過去においてもイノシシの被害が確認されていない箇所であることから、のり面全体が雨水を含んだことによる崩落であると考えられます。今回の被害箇所においてイノシシによる被害は確認されていませんが、議員ご指摘のとおり掘り起こされたのり面は脆弱になり、豪雨による被害拡大の恐れもあるため、今後も被害箇所の早期発見と早期対応に努めてまいります。

最後に3点目の猟友会や関係各所との連携についてお答えします。お尋ねの猟友会、農林部局との三者連携につきましては、現在のところ大きな被害事案がないこともあり、情報共有等の連携は行っておりません。しかし、今回ご指摘いただいたように、今後イノシシ被害が拡大し、さらに大きな災害の要因となることが考えられますので、イノシシ等によるのり面被害が頻発するような箇所については農家が設置する防止柵の設置状況や近年のイノシシ発生状況等の情報を収集するなど、しかるべき対策を行う際にはしっかり連携して対応してまいります。

〔基盤整備部長 森英樹 着席〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

1点、イノシシは先ほどの数字でも分かると思いますが、年々増えています。道路ののり面を壊すということはそれだけ市民の安全が脅かされるということで、当然、復旧工事がされると思います。飛騨市で計画的な基盤整備部で行う通常の工事が後回しになってイノシシ対策に取られると、そういった事業が縮小されるのではないかというふうに心配しておるんですが、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

箇所によると思うんですが、先ほど申しましたように危険な箇所とか放置できないところは最優先に対応していきたいと思っておりますし、パトロールだけではなかなか見つけられない部分がたくさんあるものですから、地元のいろいろな情報をいただいいただく中で地元の意見といいますか、すぐに対応してほしいところであれば市職員でやるのではなくて、業者に委託をして早急に対応するようにしていきたいと思っておりますし、予算もしっかり取って対応していきたいと思っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

そうすると、通常の工事案件は縮小されることなくイノシシ対策の予算も確保するということがよろしいでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

被害の状況にもよるんですが、大規模なものについてはしっかり補正予算を取って対応していきますので、当初予算に影響がないようにしていきたいと思っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

あと1点ですが、農林部の補助で畑とか田んぼには防護柵とか電柵をほとんどの農家の方がされているんですが、先ほど部長も市道、農道ののり面にシートなどを張ってというふうに言われましたけど、ネット等で調べますと、イノシシが掘るものですから、そこにはFRPの格子の網のようなものがあって掘れないようにすると。あとはイノシシは爪が2本に分かれていて、ネットを張ると爪に引っかかって近寄らないというものも出ています。今農林部では電柵等の補助金がありますけど、一般の市民の方が自分のところの近くののり面等にネットなどを張った場合の補助金等は考えていらっしゃるのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

道路施設として対応するものは市が対応することになると思いますので、地元でやっていただくというよりも市が対応するべきというもので、補助金ではなくて市の対応をさせていただくということになると思います。

それからのり面の大規模なものについては、掘られたところを元に戻すだけではなくて、そこに再度イノシシが入っても掘り起こされないようなメッシュの金網とかを併用して張りながら、再度災害の防止ということも視野に入れて検討していきたいと思っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

確かにイノシシは学習能力があって、毎年同じところを掘ると言われております。本当は市でやっていただければ一番いいんですけども、やはりこれだけイノシシの被害が全市にあるということは順番待ちというふうになって、我々の市道、農道を守るには農家の方や地域の方の協力があると思いますので、できれば敷設するネットなどの補助金をいただければ、あまり行政に迷惑をかけなくて済むのではないかと思いますので、その辺の検討はよろしくをお願いします。

あと、今巡回というふうに言われましたけど、どうしても今は葛の葉が多くてどこでイノシシが掘ったか恐らく分からない状態だと思います。例えば雪解けのときはまだ葛の葉や根も張っておりませんので、そういったときに巡回するのが普通だと思います。被害が起きてからやっても何の対策にもならないので。今後、巡回は時期を、例えば今年であれば葛の葉が枯れた秋、できなければ春というふうにさせていただいて、恐らく相当のり面の被害があると思いますので、災害が起きる前の予防保全ということでぜひ巡視を深めていただきたいと思います。

あと1点、県道、国道の巡視は飛騨市とは直接関係ないので、行政としては古川土木事務所とかに巡視の依頼をするのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（森英樹）

国道や県道につきましては、飛騨市よりもさらにしっかりと道路パトロールをそれぞれの管理者がっております。そういった中で、市の点検頻度よりもさらにしっかりと点検を目視等で行っているというふうに聞いておりますので、その点は大丈夫だと思っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

今ほど目視と言われましたけども、飛騨市の市道、農道はなかなか広範囲で巡視というのは難しいかもしれませんが、市民の安全なアクセス道路に落石して交通災害が起きるというのは大変大きな事故になりますので、今後も頻度を上げて巡視していただくことをお願いして次の質問に移りたいと思います。

2つ目の質問、防災士養成について。

防災士とは日本防災士機構が認証する民間資格で、自助、共助、公助を原則として、社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のため自発的な防災ボランティア活動を行うものです。防災士は様々な活動を行っています。災害時の活動では避難誘導、初期消火、救出救助の活動等に当たり、

東日本大震災や熊本震災においても防災士のリーダーシップによって住民の命が助かり、避難所開設がスムーズに運んだ報告があります。また、被災地支援では避難や復旧・復興に関わるボランティア活動や物資の調達・運搬等の各種の支援活動に参加したり、時には重機を使った瓦礫処理等の活動も実施しています。そうしたことで防災士は災害が起きたときには現場で先頭に立ち、みんなを引っ張っていかなくてはならない。大規模災害が発生すれば、家がない場所での寝食やトイレの処理など、想像もできないことが起こります。飛騨市にとっては大規模災害が発生した場合、防災士会との連携により市民の安全で安心な避難所生活ができることが重要と思い質問いたします。

1つ目、防災士会への入会の取り組み。飛騨市には防災士資格を有する方は327名で、そのうち飛騨市防災士会に加入されている方が218名。そのうち12名が高山市内の方だそうです。109名の方は入会されていないということです。理由として、第1期、第2期は加入が任意だったことと、飛騨市外で資格取得された方は補助金を受給してないので加入していないということです。ただ、防災士会に加入されていない方が109名もいらっしゃることで、災害発生時には1人でも多くの市民防災士が必要と思います。市では、防災士会に入会されていない方に飛騨市防災士会の活動内容の説明や防災士会の重要性を含め加入のお願いはしているのか伺います。

2つ目、防災士リーダー養成講座について。現在飛騨市で防災士リーダー養成講座は2月から3月に古川町において開催されていますが、4町の防災士会加入者を見ますと、人口比率もありますが古川町はほか3町と比べると多くいらっしゃいます。思うに、飛騨市の防災リーダー養成講座の開催時期が冬季で、遠方の方は交通事情を考えると敬遠されるのではないのでしょうか。そのために、養成講座時期を冬季ではない時期にはできないのか。また、開催場所も古川町、神岡町、宮川町・河合町1か所での3会場で行えば受講者も増え、中学生、高校生も保護者の送迎が要らなくなるので学生の受講者も増えると思いますがいかがでしょうか。各町内避難所では防災士を擁している町内もあれば、防災士のいない町内もあると思います。市では全ての町内避難所に防災士を確保することが円滑な避難所運営につながると思いますので、防災士資格取得のために今後検討されていることがあれば併せて伺います。

3つ目、女性防災士を増やす取り組みについて。人口減少、高齢化が加速する中で、地域で活躍する防災士がますます強く求められると思います。防災士は地域では男性が担ってきましたが、避難所運営には女性ならではの目線でリーダーシップを取ることも重要になっています。飛騨市の防災士会に入会している女性は4町全てで男性に比べ半数以下なので、女性防災士を入会する取り組みや女性防災士を増やす取り組みについてどのように検討されているのか伺います。また、中学生、高校生の避難所での役割はどのように考えているのかもお聞かせください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔危機管理監 高見友康 登壇〕

□危機管理監（高見友康）

それでは、防災士の養成について通しでお答えいたします。

まず1番目についてです。議員ご指摘のとおり市防災士会に入会されていない109名の方へのアプローチの重要性は認識しており、広報ひだの連載や市防災士会が発行を予定している「防災

かわら版」等を通じて防災士の存在を広く市民に知っていただく努力と、入会されていない方への案内を行っておりますが、さらに強化していきたいと思っております。御存じのとおり、市防災士会は昨年度から本格的に活動を始めました。このため、飛騨市防災士会の知名度向上が喫緊の課題であり、防災普及部が中心となり、今年度の事業計画の重要施策に位置づけて活動しております。具体的には、4月6日に飛騨市文化交流センターで実施した緊急特別企画シンポジウム、8月に実施予定のサマーフェスティバルでの展示、防災タウンウォッチング開催、防災デイキャンプ協力等各種活動により防災士の意義や活動の重要性等を周知し、これらの成果の蓄積により新規防災士の養成や未入会者の加入促進につながるよう、防災士会を支援してまいります。

2つ目の防災リーダー養成講座についてお答えします。防災リーダー養成講座の開催時期を2月から3月としている理由は、市民が参加しやすいように農林業や行事等への影響が少ない時期の日曜日を選定していること、区長交代時期に合わせて新旧の区長への開講案内により、区民から多くの受講者を募るようにしていること、高山市と開催時期をずらし、都合により受講できなかった方を、お互いに受け入れることでより多くの受講生を確保するという狙いをもって冬季の開催としています。さらに、より多くの受講者募集のため、各区長会や市内事業所への開講案内を説明するとともに、申込書の発送や自治会等での回覧、市公式ホームページでの掲載と2次元コードによる参加申し込みの周知等、考えられる限りの手段を実行して受講者確保に努めています。また、従来、受講期間が全4日間であったカリキュラムを日本防災士機構と調整の上で見直し、受講期間を3日間に短縮する等、多くの方が参加しやすい環境構築等の工夫もしております。

議員ご指摘の防災リーダー養成講座の会場について、古川会場に加え神岡会場での開催についても検討しているところです。防災リーダー養成講座の開催時期や会場なども含め、市防災士会と連携し、1人でも多くの市民が防災リーダー養成講座に参加できるように各種努力を続けてまいります。

最後に、女性防災士についてお答えします。女性防災士は、災害時の避難所運営や平時の防災普及活動、家具転倒防止活動など、あらゆる場面での活動が求められています。日本防災士機構によると、今年4月末時点での防災士登録人数は28万7,657人、うち女性は5万8,150人で約20%です。一方、飛騨市防災士会では会員218名中、女性は70人で約32%です。飛騨市は、全国平均より女性防災士の割合は高いものの、今後の養成数増加については検討の余地があると認識しています。このため、飛騨市防災士会では、会の活動に女性ならではの視点を積極的に取り入れるため、女性防災士を役員に多数登用しており、役員22名中13名、約60%が女性であるなど、女性の視点を十分に採用した活動や防災士養成に力を入れています。また、市防災士会では広報ひだや防災かわら版等を通じて防災士会の広報に力をいれており、女性防災士の参加についても呼びかけてまいります。

中学生、高校生の避難所での役割については、市独自の制度である「避難所運営協力防災士」への登録が現在54名であり、うち2人は高校生です。中学校や高校などの指定避難所を開設した場合、一番事情を知っているのは中高生です。こうしたことから、毎年防災リーダー養成講座受講者募集は中学校、高校に案内しています。防災士に年齢制限はありません。昨年度の防災リーダー養成講座受講生は45名、うち最高齢83歳、最年少は9歳でした。引き続き中高生への受講募集にも力を入れてまいります。

〔危機管理監 高見友康 着席〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

まず1つですが、第1期、第2期は補助金がもらえなかったということと、市外で取られたということで防災士会に入会されていない方が109名ということですが、実際資格マニアの人もいるかもしれませんけども、資格を持っていたとしても車でいえばペーパードライバーですよ。資格を持っていた、実際に訓練とか体験することが大事だというふうに思うので、ぜひ109名の方に理解していただいて、防災士会に入っていていただいて訓練に参加していただくことが重要だと思っておりますので、その辺のアプローチのほうはよろしくお願ひしたいと思います。

あと、防災士のリーダー研修養成講座ですが、今言われたように2月、3月はどうしても交通事情があって遠方の方は敬遠されるということがあったのですが、今神岡町を検討されているということですが、宮川町・河合町1か所での検討もされているのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

今ご指摘のありました河合町、宮川町の会場での開催は今のところ検討していません。理由につきましては、効率性の面で会場の確保、そして受講者の確保ができるかということが一番の理由です。一番受講者の母数が多いのは古川町、次いで神岡町です。宮川町あるいは河合町からの受講者は大体5名前後で、そこで逆に不便なところで開催した場合、神岡町、古川町の方からの参加が減るのではないかと懸念があります。

○6番（上ヶ吹豊孝）

結局、宮川町、河合町の方でも古川町へ来ているので、古川町の方が宮川町、河合町へ行っても何ら問題はないというふうに私は理解しておるんですが、その辺も検討していただきたいです。宮川町、河合町が5名程度と言われましたけど、宮川町、河合町の地域でやれば恐らく5名ではなく増えると思いますので、ぜひその辺も検討してください。

それと開催時期が農家の方の仕事がない時期ということですが、別に2月、3月ではなくても繁忙期を過ぎた秋でもできますし、どうしても2月、3月の一番雪の多いときにやるということは、それこそ宮川町、河合町の方が大雪のときに出てくるかというところちょっと心配で、受講者が減っている原因は、私はそれだと思います。全て農家の方が防災リーダーを受けるとおぼつかないので、開催時期も検討していただきたいと思います。

あと質問ですが、昨日、商工観光部長よりインバウンド需要はコロナ禍前には戻っていないということですが、それでもかなりの外国人の観光客が増えています。それで私昨日議会終わった後に古川町の一時避難所の公民館とか寺を見て回りましたが、確かに日本語掲示板で「一時避難所」というふうにあるんですが、これだけ外国人の旅行客がいらっしゃるということは、外国語の一時避難所の掲示板も必要であったりとか、一時避難所へのルート案内等も必要だと思いますが、その辺の検討はされているのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

上ヶ吹議員に申し上げます。通告にないので答弁ができないということです。

○6番（上ヶ吹豊孝）

この程度でも答えていただけませんか。分かりました。

それでは避難所の設営についてお聞きします。これも外国人対応ですが、避難所には当然地元の方が避難されると思うんですが、先ほど言いましたように外国人の方も避難すると思いますが、生活習慣とかが違う場合、同じ避難所で避難するのか、それとも外国人の場合はほかのところへ誘導するのか、その辺も伺いたいのですが通告外でしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

飛騨市の場合は人口比の外国人の比率って一番低かったんですけど、午前中もちょっと答弁しましたが今急激に増えてきているので、やはり在住の方が増えてきている分、避難所の対応というのはどうしても出てくると思うんです。ここの点については決してまだ十分ということではないと思っておりますし、しかも国籍も多様ですし、一番は雇用している方にきちんと責任を持って見てもらうというのは当然ですが、そこを通じての教育とか情報のご案内ということになるとありますが、ここはどこの国からどの会社、どの程度市内へ来ているかというのは人数的にはきちんと把握できる範囲ですから、実態を見ながら検討を進めたいと思います。

○6番（上ヶ吹豊孝）

古川町は特に外国人の観光客が多くいらっしゃるというふうに日頃見ております。なかなか世界中の言語というのは難しいかもしれませんが、英語、中国語、韓国語、日本語どこにでも外国人の方はいらっしゃいますので、そういったところの検討をしていただきたいと思います。

あと、今防災士会ではオープンチャットで連絡が来るんですが、この加入者も今230何名のうちの75名の方しか加入されていません。3分の1ぐらいなんですけど、飛騨市内でもどこで災害が起きるか分かりませんので、実際に避難所の設営をするときにそういった人手、防災士の要請をするときに連絡網だとなかなか難しいと思います。このオープンチャットの加入者は今75名ですが、これをせめて7割、8割ぐらいにするようにしないと停電時の連絡方法がないと思いますので、オープンチャットの加入を増やす検討はされているのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

議員ご指摘のとおり連絡網の確保というのは非常に重要であると認識しており、オープンチャットなどの連絡手段の加入率を上げていこうという努力はしておりますが、現在個人情報の壁という厚い壁に阻まれておりまして、名簿自体作るのを拒否されるという方が2割から3割いらっしゃいます。番号も教えたくないという方もいらっしゃいます。そういう中で今防災士会は各支部、古川町2つ、そして河合町、宮川町という中でそれぞれが連絡ぐらいいは取れるように名簿を作ろうというのが今の段階でありまして、今後さらに加入率を上げて連絡だけはしっかり取れるようにいきたいと考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

防災士の資格を持っていて連絡をしないということは、いざというときにその防災士の方はど

ういう役割をされるのか理解できないんですが、今度、防災リーダー養成講座のときは、こういったことで連絡しないと実際の災害ときに役に立たないので、むしろ条件としても個人情報オープンにするぐらいのことも言っていただけたらもう少し連絡網がしっかりできるのではないかと考えております。

私も実は防災士ですが、訓練とかの数も少なくてなかなか参加できないんですけども、それでも古川町では一生懸命やっていたらしゃる町内があつたりします。それも本当に訓練でしかないと思うんです。実際、災害に遭ったときはどんな場面があるか分からないので、例えば1泊2日ぐらい何もなくて避難所を設営して、水もガスも電気もないところで訓練をすることが実際の訓練ではないかと思うんですが、そういった本当の災害に遭った想定訓練というのは計画されていませんか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

まず、避難所運営協力防災士のことを指していっぱいやるかと思うのですが、カリキュラムについては現在もいろいろと検討しているところです。ただ、やはり必要なのは避難所を実際に開設して運営し、被災者の方を受け入れるということが一番大事なので、そのためのカリキュラムというのを優先しております。

先ほど議員がおっしゃられたのは恐らくサバイバル的な訓練の話であり、防災士がそういうサバイバルをするということは考えておりません。そのような業務については消防団あるいは警察、自衛隊の方がすべきかと思っておりますので、防災士の方は避難所に被災者を受け入れる自助、共助の中で活動していただくということを考えています。

○6番（上ヶ吹豊孝）

阪神淡路大震災のときの災害時はまだ防災士会というのはなくて、一番災害の避難所で役に立ったのが第二次世界大戦の経験者が知恵と経験で避難所で活躍されたということがあったものですから、防災士もそこまでやらないといけないのかなと思いましたが、今の危機管理監の話で、それはほかの部署でということで分かりました。

あと1点、今中学生、高校生の方がかなり取っていていいことだと思います。避難所で大人の方は防災士と協力してベッドの設営だとかパーテーションだとかの仕事があるので、中学生の方はお年寄りの相手をする、高校生は子供の面倒を見る。そういったことをすると、大人の方がお年寄りとか小さな子供の面倒を見ることなく十分避難所での設営ができると思います。先ほど少し触れましたけども、具体的に小中学校の方の防災士の仕事、役割というのはまだ明確にされていないのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□危機管理監（高見友康）

まず中学生、高校生の避難所での期待する事項ですが、避難所の小学校、中学校の体育館あるいは高校の体育館等を一番熟知しているのは学生であると認識しています。そうしますと、それらの物品がどこにあるとか、あるいは応用的にどのように使うかという柔軟な発想での使い方と

いうのは大きく期待しているところです。また、そのほかにも救援物資配布のお手伝いとか、掃除等の場面での労働力とか、先ほど議員がおっしゃられた高齢者の補助というのも期待できると思います。私、東日本大震災等も活動に従事いたしましたけれども、そういう場面をたくさん見てまいりました。また、中高生、若い方というのは非常に若さと活気があって、避難者の方に希望をもたらしております。そういう意味で若い人たちの笑顔、そして一部ではありますが楽器を演奏したり歌を歌ったりして被災生活を応援するというのも見ておりますので、そういうことについて期待しているところであります。

○6番（上ヶ吹豊孝）

確かに小学生、中学生、高校生の方は元気がいいですし、避難した場合、我々はこの先どうしたらいいんだろうというときに子供たちの元気があると我々も救われると思いますので、ぜひ小中学生、高校生も含めて役割、責任感を持っていただくことが重要だと思いますので今後ともよろしくお願いします。どちらにしても災害がないことが一番ですけども、万が一ばかり言っているとどこまで手を打っていいか分かりませんが、備えあれば憂いなしじゃないですけど、そういったことを行政と我々一般市民が勉強して協力することが重要だと思いますので、これからも防災士会の人を増やすことをお願いしてこれで一般質問を終わります。

〔6番 上ヶ吹豊孝 着席〕